

森だつて  
あなたに  
守られたい。

日本は京都議定書で-6%の温室効果ガスの削減を約束しており、森林による二酸化炭素の吸収でその約3分の2に相当する3.8%を達成する計画です。ただし、吸収源としてカウントできる森林は、手入れが行き届いて入るものに限られます。育成林(人工育成林と人手が加えられている天然林)と保安林、自然公園が該当すると考えられています。

想像してみよう。いま起こっていること、これから起ころうとしていることを。

樹木は光合成によって二酸化炭素を吸収して酸素を作り、炭素を幹や枝に貯蔵しながら成長します。成長に伴い、炭素が体内に固定化されるので、二酸化炭素を封じ込める缶詰ともいわれています。樹木も呼吸をしますが、日中に行われる光合成量のほうがはるかに多いのはい言うまでもありません。緑にみちた豊かな森林は、地球温暖化の原因である二酸化炭素対策に有効であると期待されています。

森林は、雨を地中に蓄える「緑のダム」としての役目も果たしています。土壌は落ち葉の腐食や地中の小動物の活動によって隙間に富んでやわらかく、高い保水性があります。地表に降った雨は浄化されて蓄えられ、河川にゆっくりと流れ出すため、洪水や濁水が起これにくくなっています。地中深く張りめぐらされた根や堆積物は、土壌の流出を抑えます。

現在、農地転用、違法伐採、火災などによって世界的に森林が減少しています。世界の森林面積は約40億haといわれていますが、国連食料農業機関(FAO)によると2000～2005年まで年間730万haの世界の森林が減少しています。これは1分間につき東京ドーム3個分の森林がなくなっている計算です。国土の約3分の2を森林で占める日本でも、温暖化の進行とともに、森林の衰退や生態系に異変が生じ始めています。

木々の緑、小鳥のさえずり、土のにおい。森の中には私たちの心と体を癒す不思議な力があります。森林は様々な動植物の命を育み、潤いと恩恵を与えてくれるかけがえのない自然です。目に見えなくても、減り続けている森林のことを想像してみてください。森林を破壊しているのも人間、守るのも人間なのです。

① Global Forest Resources Assessment, 2005(6.0)\*

